

団体名	国立大学法人香川大学 インターナショナルオフィス						
事業名	瀬戸内海の豊かさを守ろう—SDGs目標14「海の豊かさを守ろう」に向けた日本人学生・留学生の共修および地域住民との連携による瀬戸内海の現状把握と環境改善への取り組み—						
実施期間	①令和4年7月2日 ②令和4年11月23日						
場 所	①四国水族館(宇多津町) ②小豆島小瀬海岸(土庄町)						
参加者数	外国人留学生	その他外国人	日本人学生	地域住民	スタッフ 大学関係者	その他 (来場者等)	合計
	32		10		7		49名

四国水族館の研修では、まず、ウミガメ研究の第一人者である館長による、瀬戸内海を中心とした海洋環境に関する講義を受講し、環境問題の現状や課題について学びました。参加学生の大部分が留学生ということで、講義はすべて英語で行われました。続いて、四国の水系を再現した館内展示の見学と、各種海洋生物のえさやりの見学を行うことで、講義内容と結びつけて海洋保全の大切さを実感することができたと思います。

小豆島での研修は、SDGs目標14「海の豊かさを守ろう」をテーマとする授業の一環として実施しました。島しょ部における海洋環境問題を実地で学ぶべく、年間200回近いビーチクリーン活動を行っている県内の専門家を講師として招き、ビーチクリーン活動と、そのふりかえりを含めた講義が行われました。拾い集めた海洋ごみは、ICC(International Coastal Cleanup)という国際的な方式に基づいて分類・調査し、現状分析や対策を話し合いました。座学で学んだことと、実地で見て体験したことが結びつくことで、より深い学びになったことが、終了後に提出されたレポートからも窺えました。

両事業とも、共修と交流のため参加学生は留学生と日本人学生混成のグループを編成し、グループごとに協力して活動することで、英語や日本語で学修を深めたり、相互理解を図ったりすることができました。

### <記録写真>



ウミガメ専門家の館長による  
講義(四国水族館)



ICC方式で海ごみを分別  
(小豆島)



ビーチクリーン活動  
(小豆島)

### <参加者からのコメント>

何葉陽光さん(中国)

HE YEYANGGUANG/China

今回の学修はとても良い学習になった。四国の水系と瀬戸内海の環境の問題を知り、海洋環境問題の理解が深まった。同行の学生たちといっぱい話して、さまざまな外国のことを知り、とても良いだと思ふ。ありがとうございました！

猪塚敦智さん(日本)

IZUKA Taichi/Japan

留学生と多くの会話を交わすことができた。楽しい雰囲気なので、気軽に話しかけることができ、普段、大学でいる時よりも積極的に話すことができた。このような機会が無ければ会うことの無かった留学生もいたので、この研修に参加してよかったと思っている。

### 英語名称(英語版作成用)

団体名	International Office, Kagawa University
事業名	Protecting the richness of the Seto Inland Sea (SDGs Goal 14: Life Below Water) - Efforts to understand the current situation of the Seto Inland Sea and to improve the environment through co-education of Japanese students and international students and cooperation with local residents toward -